



記念講演会

F1そしてルマンへ——その挑戦を通じて得られたものは

高橋敬三氏 (株)トヨタモーターセールス&マーケティング モータースポーツオフィス シニアディレクター

日時：10月24日(金) 13:00-14:30 会場：ビッグパレットふくしま コンベンションホール



1999年1月、トヨタ自動車(株)がF1への挑戦を発表。実際には1997年夏頃からF1参戦の検討を開始。当時、トヨタは米国フォーミュラーカーレースのCARTシリーズに参戦していたが、高回転レースエンジンの経験が少なく、レースのたびにエンジンが破損するという惨憺たる状況であった。

こうした状況下、1999年には予選でトップを取るレベルにまで進化。また、F1挑戦にあたり、車両とエンジンを一箇所で同時に開発するという参戦形態を確立するため、自らチームを立ち上げた。

次にF1参戦中の2006年、新たなプロジェクトとしてハイブリッド車両によるレース参戦を検討を開始。トヨタは、量産ハイブリッド車の先駆者であるが、ハイブリッド技術はまだまだ発展途上にあるため、モータースポーツを活用してその性能を飛躍的に高めようという狙いがあった。性能目標は、量産の10倍という非常に高いものであったが、2012年ルマン24時間耐久レースに参戦を開始した。



高橋敬三 Keizo Takahashi

(株)トヨタモーターセールス&マーケティング モータースポーツオフィス シニアディレクター

1957年福島県郡山市生まれ。1976年福島県立安積高校卒業。1980年東北大学工学部機械工学科卒業、同年トヨタ自動車工業(株)入社。以後、16年間量産エンジン(M型、G型、JZ型)の設計業務を担当。1997年同社モータースポーツ部へ異動、米国CARTシリーズ用レースエンジンの開発を担当。2001年TMG(ドイツ、ケルン市)へ出向、F1の開発を担当。2002年から2005年までのすべてのF1レースに参加。2006年モータースポーツ部に帰任。2012年TS030 HYBRIDにてルマン24時間耐久レースに参戦。2014年(株)トヨタモーターセールス&マーケティングに出向